

2024年2月13日

委員から事前にいただいた御意見

委員	意見
長田昌彦委員 (埼玉大学)	<p>事前の資料を拝見し、次のような意見書を提出させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・今回ご提示いただいた文献調査報告書(案)は、「文献調査段階の評価の考え方」に基づいて丹念に調査され、取得されたデータをもとに、一つ一つの項目については評価されていると考えます。ただ、私が個人的に抱いていた文献調査の成果は、住民にもわかる「その場の理解」であり、今回の報告書だけでは私は「その場の理解」が出来なかったというのが、率直な意見です。「市民に理解を求めるまでの計画、条件が揃っていなかった」という対馬市長の言葉は、重く受け止めなければならないと思っております。・寿都町文献調査報告書(案)では、白炭断層を含む黒松内低地断層帯の北方延長に関する知見がないことを理由に、概要調査地区の候補として、文献調査対象地区全体を残されています。確かに科学的な根拠がないため、はっきり言えないことは理解できるのですが、それを理由に敢えて残すことが賢明なのかは、WGでも一度議論したほうがよいように思います。危うきには近寄らず的なエンジニアリングジャッジが文献調査段階にあってもよいように感じております。・「第四紀の未固結堆積物」については、パブリックコメントでもご指摘いただいたように、私自身も違和感を常に感じております。法律に記載されていることなので、簡単に修正できないことは理解しておりますが、これを機に、再度の検討をお願いいたします。 <p style="text-align: right;">以上</p>

遠田晋次委員 (東北大学)	令和6年能登半島地震では、発生の約3年前から珠洲で顕著な地殻変動と群発地震活動が続きました。その原因が、地下深部の流体による圧力膨張と流体浸透による断層摩擦低下などの説が有力です。能登半島は火山地帯ではありません。そのような火山地帯外での流体の変動、断層発達・地震活動との関連を今後どのように考えていくのか(必ずしも流体説が完全に支持されるわけではありませんが)。能登半島地震に関する知見の収集や、地下流体の研究・評価に関するNUMOの今後の取り組みを伺いたい。
新堀雄一委員 (東北大学)	報告書(案)および要約書(案)について、「文献調査段階の評価の考え方」に基づき、考慮事項である地震・活断層、噴火、第四紀の未固結堆積物および鉱物資源等を技術的観点から調査して、その結果をまとめており、経済社会的観点からの検討を含め、妥当なものと考えます。加えて、放射性物質の閉じ込め機能、地下施設の建設可能性の技術的観点から留意すべきと考えられる事項や概要調査以降の調査を実施する場合に現地調査における地質環境特性データ取得の観点から通常の調査に加えて留意すべきと考えられる事項も概ね抽出されていると存じます。なお、これら調査報告の内容を如何に社会に示していくかは今後も継続して検討をお願いしたいと思います。